



# 2019年3月期 決算説明会

2019年4月26日

代表取締役社長 森田 宏之  
日鉄ソリューションズ株式会社

## 目次

### I . 2019年3月期 実績

### II . 2020年3月期 業績見通し

### III . 主要施策

### IV . 参考資料



I

2019年3月期 実績

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

## I -1. 2019年3月期 連結決算ハイライト

	年度実績	対前年	対見通
売上高	<b>2,653</b> 億円	<b>+211</b> 億円	<b>+73</b> 億円
営業利益	<b>257</b> 億円	<b>+30</b> 億円	<b>+17</b> 億円
当期純利益	<b>171</b> 億円	<b>+22</b> 億円	<b>+11</b> 億円

注) 本資料における当期純利益の表記は、「親会社株主に帰属する当期純利益」

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

4

**2019年3月期の連結決算実績のハイライトです。**

**売上高は、2,653億円 対前年度+211億円で+9%の増収**

**営業利益は、257億円 対前年度+30億円で+13%の増益**

**当期純利益は、171億円 対前年度+22億円で+15%の増益  
となりました。**

**また、昨年10月の公表値に対しては、**

**売上高+73億円、営業利益+17億円、当期純利益+11億円  
の増収増益となりました。**



## I -2. 連結決算業績

単位: 億円	2018/3期 実績 A	2019/3期 実績 B	対前年 差異 B-A	2019/3期 (前回見直し) C	対見直し 差異 B-C
売上高	2,442	2,653	+211	2,580	+73
業務ソリューション	1,611	1,756	+146	1,705	+51
サービスソリューション	831	896	+65	875	+21
売上総利益	491	526	+35	510	+16
<売上高総利益率>	<20.1%>	<19.8%>	<-0.3%>	<19.8%>	<+0.1%>
販管費	264	269	+5	270	-1
営業利益	227	257	+30	240	+17
経常利益	231	261	+30	245	+16
親会社株主に帰属する 当期純利益	149	171	+22	160	+11

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

5

2019年3月期の業績(B欄)は、  
連結売上高2,653億円、営業利益は257億円となりました。  
売上高は、対前年度+211億円の増収です。内訳は、  
業務ソリューションで+146億円、サービスソリューションで+65億円の増収となりました。

売上総利益は、  
売上高総利益率が19.8%と対前年度-0.3%低下しましたが、  
増収効果により対前年度+35億円の増益となりました。

販管費は、対前年度+5億円増加し、269億円となりました。

結果、営業利益は+30億円増益の257億円、  
経常利益は+30億円増益の261億円、  
当期純利益は+22億円増益の171億円となりました。

前回公表値(C欄)に対しましては、  
売上高は+73億円の増収、  
売上総利益は増収効果により+16億円の増益、  
販管費はほぼ計画通りの-1億円、  
結果、営業利益は+17億円の増益となりました。

### I -3. 連結決算業績 | 上下別

単位: 億円	2018/3期		2019/3期		対前年		前回	対見通し 差異 D-E
	上期 実績	下期 実績	上期 実績	下期 実績	上期 差異	下期 差異	下期 見通し	
	A	B	C	D	C-A	D-B	E	
売上高	1,166	1,277	1,246	1,406	+81	+130	1,334	+73
業務ソリューション	768	843	814	943	+46	+100	891	+51
サービスソリューション	398	434	433	464	+35	+30	442	+21
売上総利益	236	255	249	277	+13	+22	261	+16
<売上高総利益率>	<20.2%>	<19.9%>	<20.0%>	<19.7%>	<-0.3%>	<-0.2%>	<19.6%>	<+0.1%>
販管費	135	129	136	133	+1	+4	134	-1
営業利益	101	126	113	144	+12	+18	127	+17
経常利益	105	126	115	146	+10	+20	130	+16
親会社株主に帰属する 当期純利益	66	84	72	99	+6	+15	88	+11
(参考) 日本製鉄向け	(219)	(237)	(246)	(263)	(+27)	(+26)	(239)	(+25)

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

6

上下別の業績になります。上期は昨年10月にご説明していますので、  
下期についてご説明いたします。

下期の売上高は、1,406億円と対前年同期+130億円の増収となりました。  
業務ソリューションで+100億円で、3Q期に大型プロダクト販売が30億円ありました。  
サービスソリューションは+30億円で、鉄鋼がのびました。

下期の売上総利益については、  
売上高総利益率は19.7%と対前年同期-0.2%低下しました。  
この要因は、3Q期に大型プロダクト販売の売上が30億円あったことに加え、  
4Q期に赤字案件の影響が8億円あったことによります。  
これを除く売上高総利益率は20.6%で前年同期の19.9%に対しては、  
+0.7%向上しておりますが、  
これは、3Q期の売上高総利益率が比較的高水準であったことによります。

これらに増収効果があり

下期の売上総利益は、対前年同期+22億円増益の277億円となりました。  
下期の販管費は対前年同期+4億円増の133億円となりました。  
この結果、営業利益は対前年同期+18億円増の144億円となりました。

## I -4. サービス・顧客業種別売上高

単位: 億円	2018/3期		2019/3期		対前年差異		コメント
	実績 A	うち ITインフラ	実績 B	うち ITインフラ	B-A	うち ITインフラ	
業務ソリューション	1,338	306	1,465	333	+127	+27	
産業・流通・サービス	589	184	655	211	+67	+27	ネット・サービス、小売、旅行、輸送の増
金融	334	85	307	80	-27	-5	メガバンク統合案件のピークアウト
公共公益他	415	38	503	43	+87	+5	中央官庁向け基盤構築案件及び大型プロダクト案件による増、テレコムの増
サービスソリューション	783		847		+65		
ITインフラ	326	<306>	332	<333>	+6	<+27>	マルチクラウド、DaaS及びプロダクトの増
鉄鋼	456		516		+59		日本製鉄グループの活発なIT投資
子会社等	321		340		+19		
合計	2,442		2,653		+211		
(参考)日本製鉄向け (457)			(510)		(+53)		
受注高	2,479		2,916		+436		業務ソリューション +392 サービスソリューション +45

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

7

続いて、通期の売上高をサービス・顧客業種別にみてみます。

業務ソリューションは1,465億円で、+127億円の増収です。内訳は、産業・流通・サービスがネット・サービス、小売、旅行、輸送で+67億円の増収。金融はメガバンク統合案件のピークアウトにより上期を中心に-27億円の減収。公共公益他は、大型プロダクト販売が昨年と同じく上期に60億円、加えて3Q期に30億円ありました。また、官公庁向けの基盤構築案件が好調で期中案件が積み上がりテレコムも伸びた結果、+87億円の増収となりました。

サービスソリューションは、847億円で、+65億円の増収です。内訳は、ITインフラはマルチクラウド、DaaSにより+6億円。また、ITインフラ連携によるプロダクト販売が好調で、これを加味すると+33億円の増収です。鉄鋼は、日本製鉄グループでの活発なIT投資により+59億円の増収です。なお、日本製鉄向けの売上高は、510億円と+53億円の増収となりました。

受注高は、2,916億円で対前年度+436億円の増となりました。内訳は、業務ソリューションで+392億円。産業・流通・サービスで+80億円、公共公益で+320億円です。公共公益には、大型プロダクト販売の受注が上期で+60億円、下期で+120億円ありました。金融は、昨年度から-30億円となりました。サービスソリューションは+45億円、うちITインフラで+20億円、鉄鋼で+25億円です。

## I -5. サービス・顧客業種別売上高 | 上下別

単位:億円	2018/3期		2019/3期		対前年差異		前回	対見通し
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	下期見通し	下期
	A	B	C	D	C-A	D-B	E	D-E
業務ソリューション	638	700	678	787	+40	+87	747	+40
産業・流通・サービス	277	311	318	337	+41	+26	322	+15
金融	174	161	143	164	-31	+3	162	+2
公共公益他	187	228	217	286	+30	+57	263	+23
サービスソリューション	377	406	411	437	+34	+31	414	+22
ITインフラ	156	171	158	174	+2	+4	172	+2
鉄鋼	221	235	253	262	+32	+27	242	+21
子会社等	151	171	158	182	+7	+12	172	+10
合計	1,166	1,277	1,246	1,406	+81	+130	1,334	+73
(参考)日本製鉄向け	(219)	(237)	(246)	(263)	(+27)	(+26)	(239)	(+25)

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

8

下期の売上高をサービス・顧客業種別に詳細にみてみますとこちらようになります。

下期の売上高は、1,406億円と対前年同期+130億円の増収となりました。

業務ソリューション+87億円の内訳は、

産業流通サービスがネットサービス、旅行、小売りが堅調で+26億円の増収

金融は、下期は対前年同期とほぼ同水準で+3億円

公共公益他は、3Q期に大型プロダクト販売30億円があったことに加え、

官公庁向けの基盤構築が好調で期中案件が積み上がり

また、テレコムも伸びた結果、+57億円の増収となりました。

サービスソリューション+31億円の内訳は、

ITインフラは、+4億円の増収

鉄鋼は日本製鉄グループでの活発なIT投資により+27億円となりました。

なお、日本製鉄向けの売上高は、263億円と対前年同期+26億円となりました。

子会社等は、+12億円となりました。

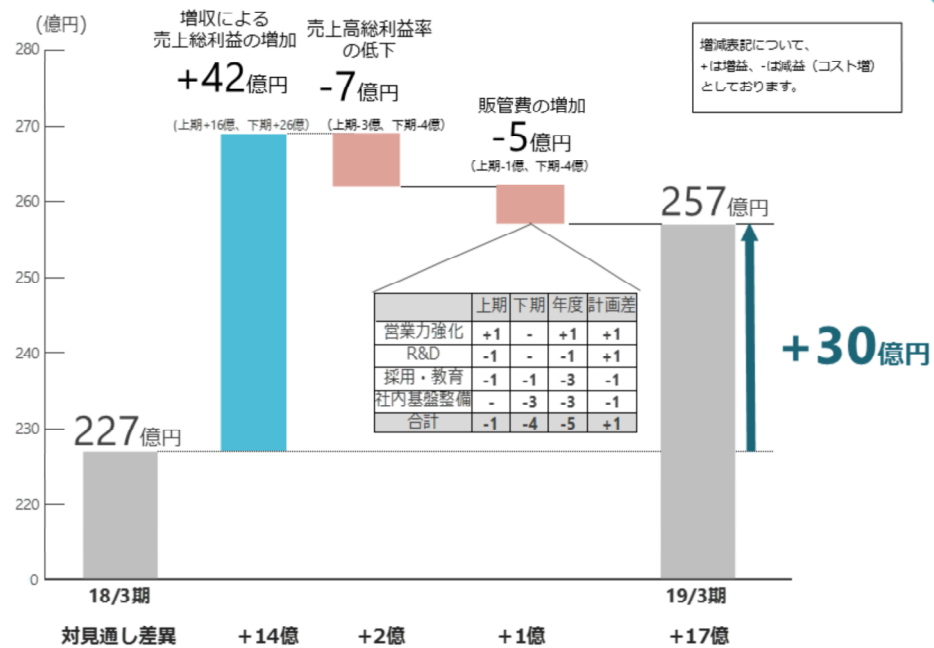
下期見通しに対しては、+73億円の増収となりましたが、

産業流通サービスで+15億、

公共公益他で+23億

鉄鋼で+21億円となりました。

## I -6. 連結営業利益分析



Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

9

連結営業利益の対前年度分析です。

営業利益は、前年度の227億円から+30億円増益の257億円となりました。

売上総利益は、

増収+211億円による売上総利益額の増が+42億円

売上高総利益率は19.8%と-0.3%低下し-7億円

この結果、売上総利益としては、+35億円となりました。

販管費は、受注好調により営業支援費が減少しましたが、

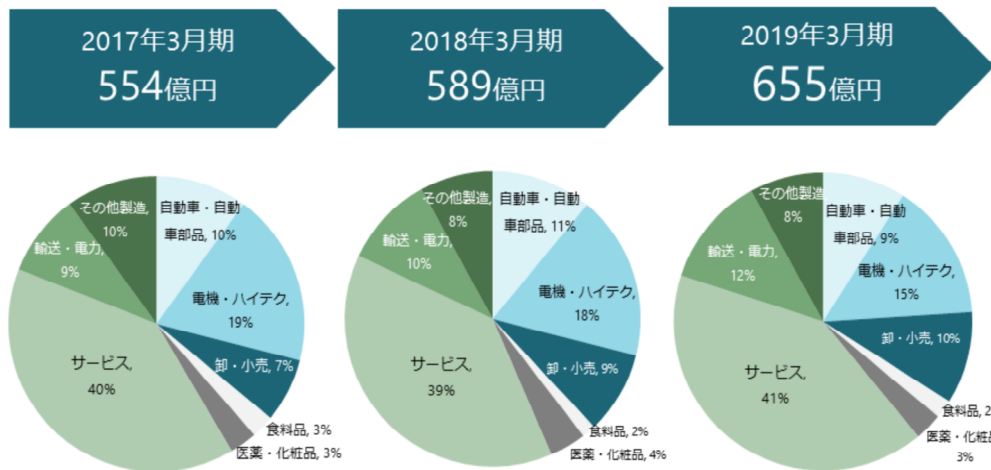
研究開発、採用・教育、社内基盤整備の増があり、5億円の増となりました。

この結果、

営業利益は、+30億円増益の257億円となりました。

## I -7. 産業・流通・サービス向けの内訳推移

2017年3月期～2019年3月期

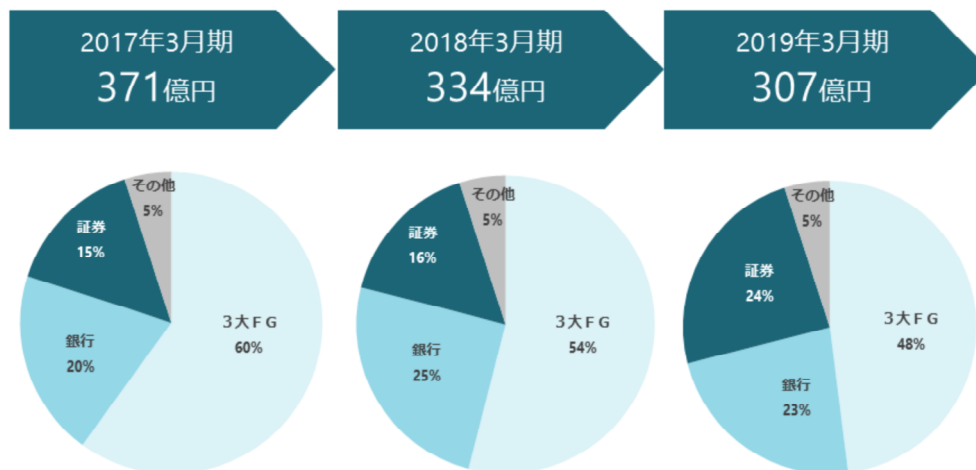


Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

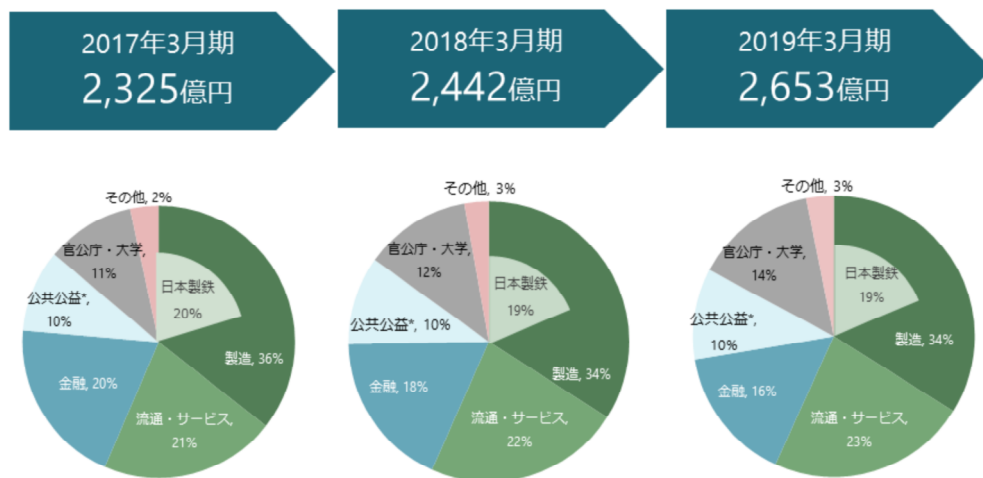
10

## I -8. 金融向けの内訳推移

2017年3月期～2019年3月期



## I -9. 業種別売上比率



\*公共公益：輸送、通信、電力等



## 参考

### ◆ 特別損益事項

- (1) 保有株式売却 (特別利益+ 1 0 億円)
- (2) オフィス整備費用 (特別損失- 1 0 億円)

### ◆ 自己株式の取得

- (1)自己株式取得(2018年 8 月 2 日取締役会決議)
  - ①取得する株式の種類 普通株式
  - ②取得する株式の総数 4,700,000 株(上限)  
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 4.96%)
  - ③株式の取得価額の総額 10,000 百万円(上限)
  - ④取得期間 2018 年 8 月 6 日から2019 年 3 月22 日まで
- (2)上記取締役会決議に基づき取得した自己株式の累計  
(2019年3月18日取得終了)
  - ①取得株数 3,187,700株
  - ②株式の取得価額の総額 9,999,917,000円

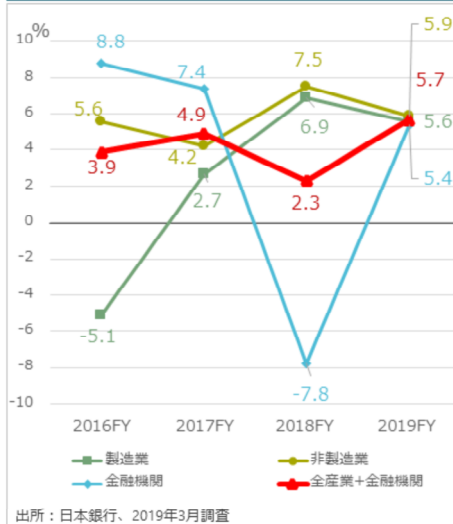
## II

## 2020年3月期 業績見通し

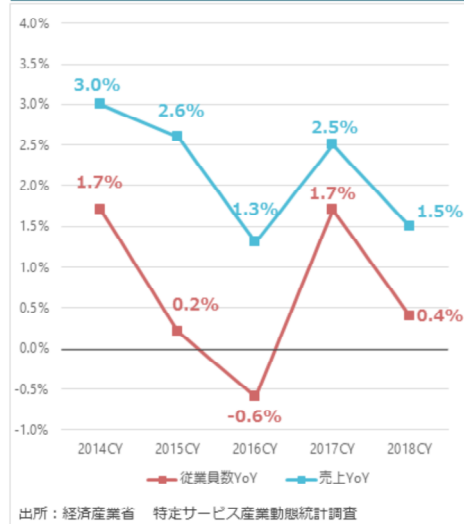
Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

## 日銀短観、特定サービス産業動態統計

日銀短観 ソフトウェア投資額 (YoY)



特定サービス産業動態統計  
(情報サービス業)



Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

15

日本のシステム関連のマーケットの全体感を統計データから見てみます。

左のグラフは、日銀短観のソフトウェア投資額YoYで、どのセグメントも活発な投資を計画しています。






右のグラフは経済産業省の特定サービス産業動態統計です。

売上高は、堅調に推移しております。

一方従業員数は、14年からほとんど伸びていない状況です。需要が堅調なのに対し、供給が伸びずギャップが広がっていると感じています。

2019年度も引き続き活発なIT投資の継続が予想されるなか、人材リソースネックへの対応が益々重要な課題となると考えています。

## Ⅱ-1. サービス・顧客業種別の市場認識

市場認識		市場動向
<b>業務ソリューション</b>		
産業・流通・サービス	ネット・サービス、小売、旅行、輸送は堅調なIT投資が継続。	
金融	中期的な成長戦略を踏まえたIT投資は継続するものの、慎重さがみられる。	
公共公益他	官公庁分野は、基盤構築案件を中心に高稼働が継続。	
<b>サービスソリューション</b>		
ITインフラ	ITインフラアウトソーシングニーズは、顧客側のリソース不足を背景に引き続き堅調。マルチクラウド、セキュリティ対応、VDI(*1)/DaaS(*2)等へのIT投資が継続。	
鉄鋼	日本製鉄の2020年中期経営計画達成に向けたIT投資が継続。	

\*1:VDI:Virtual Desktop Infrastructure

\*2:DaaS:Desktop as a Service

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

16

## Ⅱ-2. 2020年3月期 連結業績見通し

単位: 億円	2019/3期 実績 A	2020/3期 見通し B	対前年 差異 B-A
売上高	2,653	2,800	+147
業務ソリューション	1,756	1,860	+104
サービスソリューション	896	940	+44
売上総利益	526	551	+25
<売上高総利益率>	<19.8%>	<19.7%>	<-0.1%>
販管費	269	279	+10
営業利益	257	272	+15
経常利益	261	275	+14
親会社株主に帰属する 当期純利益	171	180	+9

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

17

**2020年3月期の業績見通しです。**

**売上高は、2,800億円**

**営業利益は、272億円、**

**当期純利益は、180億円といたします。**

**売上高は、前年度に対し+147億円の増収**

**売上総利益は、+25億円の増益で**

**売上高総利益率は、19.7%です。**

**販管費は、+10億円の増で、**

**営業利益は、+15億円の増益、**

**当期純利益は、+9億円の増益です。**

## Ⅱ-3. サービス・顧客業種別売上高 見通し

単位: 億円	2019/3期		2020/3期		対前年差異		コメント
	実績 A	うち ITインフラ	見通し B	うち ITインフラ	B-A	うち ITインフラ	
業務ソリューション	1,465	333	1,560	400	+95	+67	
産業・流通・サービス	655	211	750	275	+95	+64	ネット・サービス、小売、旅行、輸送の増に加え、大型基盤案件の寄与
金融	307	80	315	85	+8	+5	
公共公益他	503	43	495	40	-8	-3	基盤構築案件を中心に高稼働が継続
サービスソリューション	847		885		+38		
ITインフラ	332	<333>	350	<400>	+18	<+67>	マルチクラウド、DaaS及びプロダクトの増
鉄鋼	516		535		+19		日本製鉄グループの活発なIT投資
子会社等	340		355		+15		
合計	2,653		2,800		+147		
(参考)日本製鉄向け	(510)		(525)		(+15)		

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

18

売上高についてサービス・顧客業種別に前年比較をみてみます。

売上高は、2,800億円で+147億円の増収で、  
 業務ソリューションで+95億円です。内訳は、  
 産業・流通・サービスは、ネットサービス、小売り、旅行、輸送などのIT投資が期待でき  
 加えて、大型基盤案件70億円を見込み、+95億円です。  
 金融は厳しい環境ですが、+8億円。  
 公共公益等は、大型プロダクト販売が、前期90億円に対し、  
 今期も120億円あり+30億円ですが、  
 前期の期中案件の積み上がり40億円を、今期は織り込まず-8億円です。

サービスソリューションは、+38億円です。  
 ITインフラはマルチクラウド、DaaS、プロダクト等により+18億円。  
 鉄鋼は、日本製鉄の2020年中期計画対応による活発なIT投資を中心に+19億円。  
 日本製鉄向けは525億円で+15億円です。

子会社等は+15億円です。

## Ⅱ-4. サービス・顧客業種別売上高 見通し | 上期

単位: 億円	2019/3期		2020/3期		対前年差異		コメント
	上期実績 A	ウチ ITインフラ	上期見通し B	ウチ ITインフラ	B-A	ウチ ITインフラ	
業務ソリューション	678	177	815	245	+137	+68	
産業・流通・サービス	318	115	400	175	+82	+60	ネット・サービス、小売、旅行、輸送の増に加え、大型基盤案件の寄与
金融	143	36	150	45	+7	+9	
公共公益他	217	26	265	25	+48	-1	中央官庁向け大型プロダクト案件による増
サービスソリューション	411		440		+29		
ITインフラ	158	<177>	170	<245>	+12	<+68>	マルチクラウド、DaaS及びプロダクトの増
鉄鋼	253		270		+17		日本製鉄グループの活発なIT投資
子会社等	158		165		+7		
合計	1,246		1,420		+174		
(参考)日本製鉄向け	(246)		(260)		(+14)		

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

19

続いて、上期の売上高についてサービス・顧客業種別に前年比較を見ますと、

売上高は、1,420億円で+174億円の増収で、

業務ソリューションで+137億円です。内訳は、

産業・流通・サービスは、大型基盤案件70億円を見込み+82億円

金融は+7億円

公共公益等は、大型プロダクト販売が、前年同期60億円あったことに対し、

今期も120億円あり+48億円です。

サービスソリューションは、+29億円です。

ITインフラで+12億円。

鉄鋼で+17億円。

日本製鉄向けは260億円で+14億円です。

子会社等は+7億円です。

## Ⅱ-5. 2020年3月期 連結業績 見通し | 上下別

単位: 億円	2019/3期			2020/3期			対前年		
	上期実績	下期実績	年度実績	上期見通し	下期見通し	年度見通し	上期差異	下期差異	年度差異
	A	B	C	D	E	F	D-A	E-B	F-C
売上高	1,246	1,406	2,653	1,420	1,380	2,800	+174	-26	+147
業務ソリューション	814	943	1,756	955	905	1,860	+141	-38	+104
サービスソリューション	433	464	896	465	475	940	+32	+11	+44
売上総利益	249	277	526	266	285	551	+17	+8	+25
＜売上高総利益率＞	<20.0%>	<19.7%>	<19.8%>	<18.7%>	<20.7%>	<19.7%>	<-1.2%>	<+1.0%>	<-0.1%>
販管費	136	133	269	142	137	279	+6	+4	+10
営業利益	113	144	257	124	148	272	+11	+4	+15
経常利益	115	146	261	125	150	275	+10	+4	+14
親会社株主に帰属する当期純利益	72	99	171	80	100	180	+8	+1	+9
(参考)日本製鉄向け	(246)	(263)	(510)	(260)	(265)	(525)	(+14)	(+2)	(+15)
期首受注残	1,211	1,344	-	1,474	-	-	+263		

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

20

2020年3月期見通しを、上下別にご説明いたします。

売上高は、上期1,420億円。+174億円の増収です。

公共公益等の大型プロダクト販売120億円及び

産業流通サービスで大型基盤案件70億円を見込んでおります。

期首受注残は、1,474億円と昨年同期に対し+263億円となりました。

このうち、上期の売上増への寄与は、180億円の見通しです。

下期見通しは、1,380億円で-26億円の減収としています。

下期は大型プロダクト販売30億円の反動減があります。

また、前年下期は公共公益で期中案件が積み上がりましたが、今下期には織り込んでおりません。

売上高総利益率は上期18.7%、下期20.7%とみています。

大型プロダクト販売および大型基盤案件を除くと、上期20.8%、下期20.7%です。

前年同期を同様にプロダクト販売、下期の赤字案件影響を除いた売上高総利益率は、

上期20.8%、下期20.6%ですので、ほぼ同水準です。

販管費は、上期+6億円、下期+4億円、年度で+10億円の増です。

営業利益は、上期124億円、下期148億円

当期利益は、上期80億円、下期100億円です。

受注残1,474億円、対前年+263億円の内訳は、

業務ソリューションで+217億円の増。うち、産業流通サービスで+20億円、金融で+10億円

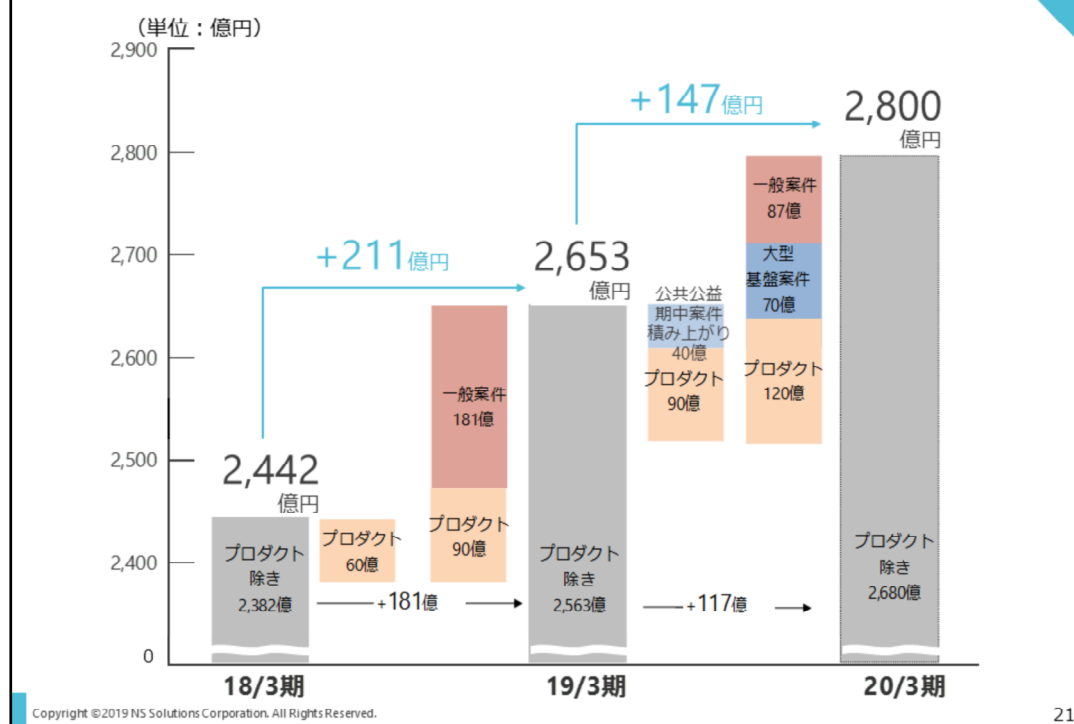
公共公益で+180億円です。

公共公益の増には、大型プロダクト販売の受注残の増が+120億円含まれています。

サービスソリューションは、+46億円。うち、ITインフラで+10億円、鉄鋼で+35億円です。



## Ⅱ-6. 売上高の推移



21

売上高の推移についてご説明します。

2018年3月期から2019年3月期は、+211億円の増収となりました。

大型プロダクト販売が90億円あったことに加え、

産業流通サービス、ITインフラ、鉄鋼がそれぞれ伸びたことと、

公共公益他で官公庁向けの基盤構築案件が好調で

期中案件が積みあがったことによりです。

2020年3月期の見通しは、

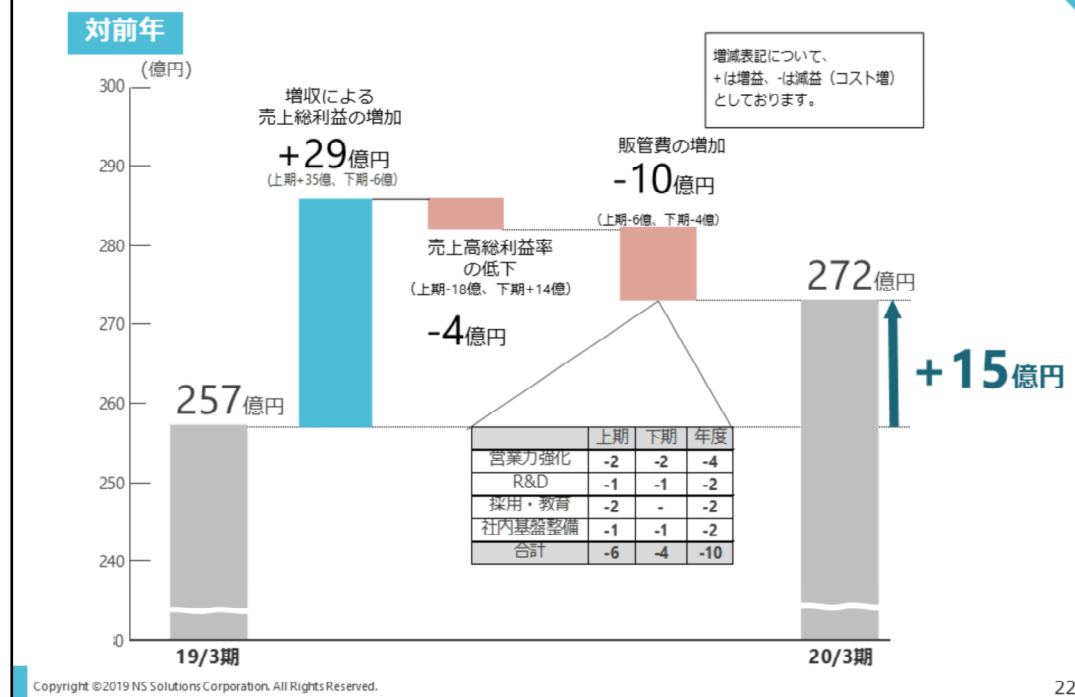
一般案件を+87億円と着実にのばします。

これらに加え、昨年度受注した大型プロダクト販売の売上が120億円、

また、産業流通サービスで大型基盤案件70億円を見込んでいます。

これらにより、対前年度+147億円増収の売上高2,800億円を見込んでいます。

## Ⅱ-7. 2020年3月期 連結営業利益分析



2020年3月期の連結営業利益の対前年度分析をご説明いたします。

営業利益は、前年度257億円から+15億円増益の272億円です。

売上総利益は、

増収+147億円による売上総利益額の増が+29億円

売上高総利益率の低下で-4億円

この結果、売上総利益は+25億円です。

販管費は、10億円の増加です。内訳は、

営業力強化 4億円

研究開発費 2億円、

採用・教育 2億円、

社内基盤整備 2億円、

この結果、営業利益は対前年度+15億円の増益で272億円となります。

## Ⅱ-8. 配当方針

当社は将来にわたり競争力を維持強化し、企業価値を高めていくことが重要と考えております。利益配分につきましては、株主の皆様に対する適正かつ安定的な配当及び事業成長に備えた内部留保を確保することを基本としております。

配当につきましては、連結業績に応じた利益還元を重視し連結配当性向30%を目安といたします。

### 1 株当たり年間配当金の計画

2020年3月期

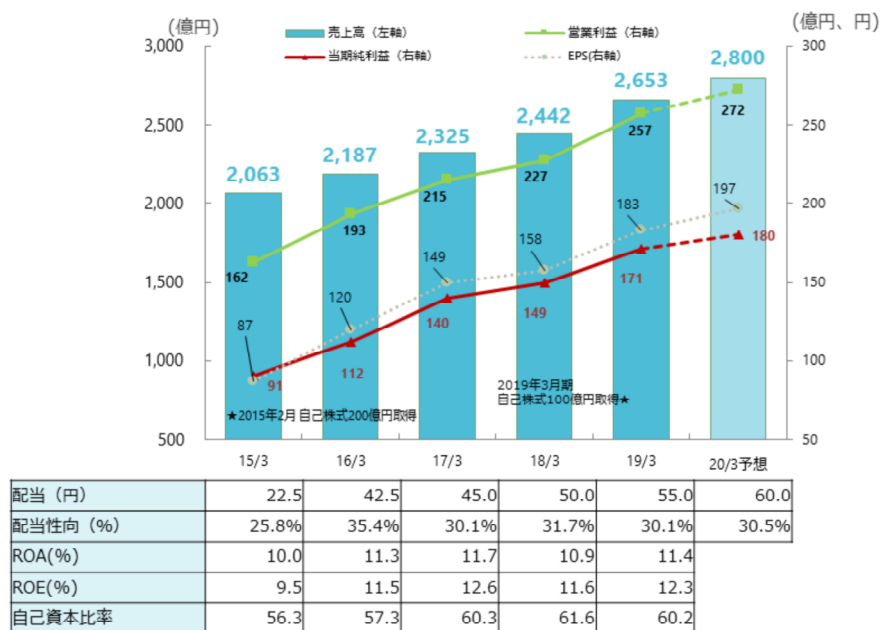
60円

(参考) 2019年3月期

55円

2Q末/期末において、それぞれ1株当たり30円の配当を予定しております。

## Ⅱ-参考 主要財務指標推移



※1：配当、EPSについては、2016年1月1日付け株式分割を遡及調整して算出しております。

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

### III

## 主要施策

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

### Ⅲ．2020年3月期の主要施策

#### 1．構造的事業成長の持続

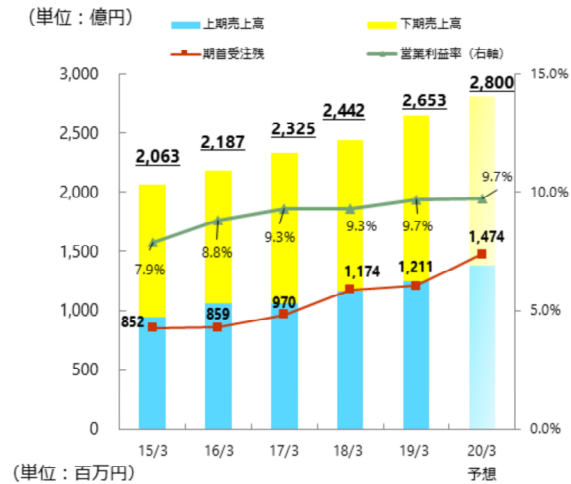
- ・ビジネスモデルの高度化
- ・デジタルイノベーションの展開
- ・サービスビジネスの強化
- ・日本製鉄対応

#### 2．成長を支える事業基盤の強化

- ・働きがいのある会社づくり

## Ⅲ-1. K P I

**KPI : 成長力(受注残・人員数) × 収益力(一人当たり売上高・売上高営業利益率)**

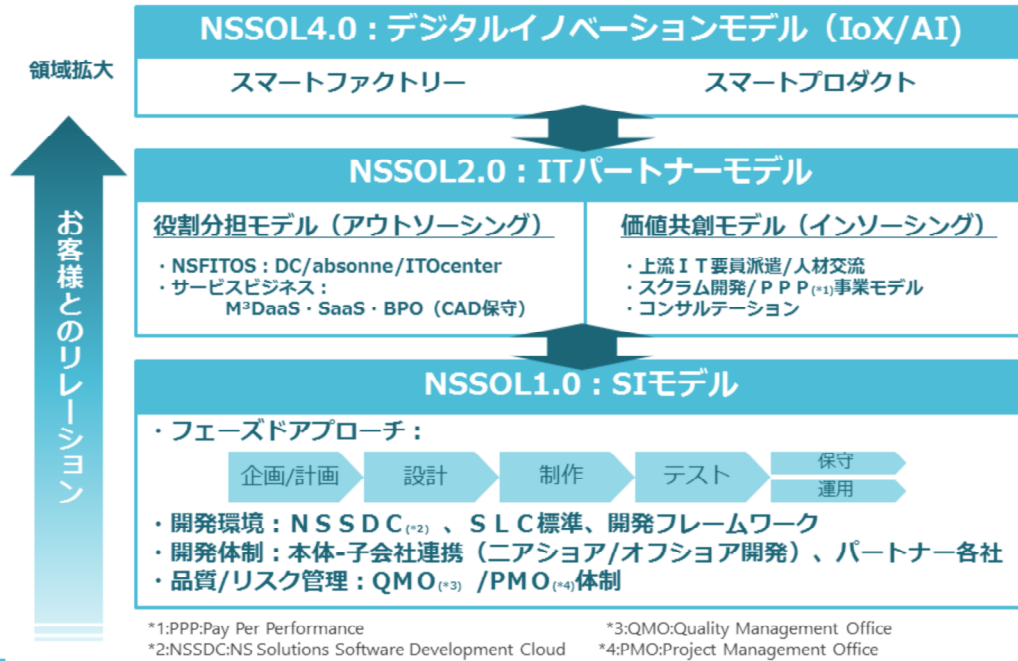


(単位：百万円)

期末連結 人員数	5,325	5,644	5,931	6,232	6,434	
一人当たり 売上高	38.7	38.7	39.2	39.2	41.2	

- ・ アカウント戦略に基づく事業部間の営業連携推進
- ・ ITパートナー戦略に基づく顧客とのリレーション強化による長期案件の獲得とサービスビジネスの強化
- ・ 持続的事業成長を支える人材の拡充

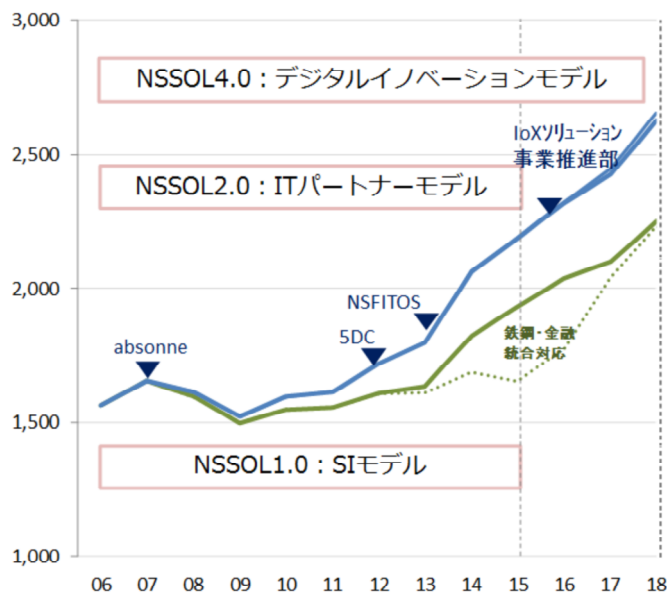
## Ⅲ-1. ビジネスモデルの高度化①





## Ⅲ-1. ビジネスモデルの高度化②

売上（億円）



- デジタルイノベーションにより出現する新たなマーケットへの進出
- アカウント戦略の強化によるITパートナーモデルの進化・拡大
- 統合領域での事業の安定化
- 堅調なIT需要の捕捉

## Ⅲ-1. デジタルイノベーションの展開(NSSOL4.0)

### ◆ AIビジネス

#### ①AIビジネス

- ・機械学習プラットフォーム  
"DataRobot"
- ・データオペレーション自動化  
"PreRobo"

#### ②「Data Leverage Center」

2019年4月にデータ活用における技術やノウハウをお客様へ提供する事を目的とし、システム研究開発センターに設置。

### ◆ IoXの展開

IoXプラットフォームにより、製鉄所で、安全見守り、設備保全、作業支援を本格展開(1,000名超が利用中)。



## Ⅲ-1. サービスビジネスの強化(NSSOL2.0)

### ①オラクルクラウドビジネス

「absonne」（アブソヌ）のメニューとして  
「Oracle Cloud at Customer」、  
「Oracle Exadata Cloud at Customer」  
を活用したクラウド・サービスの提供を開始。

### ②デジタルワークプレイス

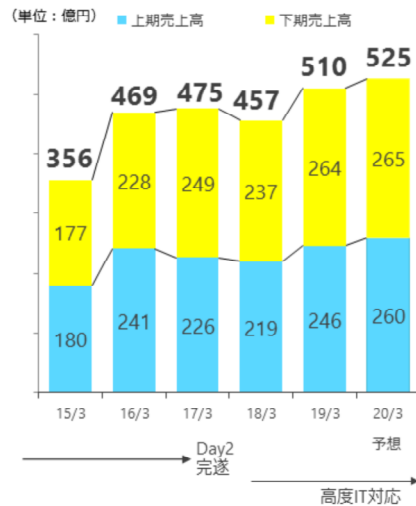
日本ビジネスシステムズ株式会社（JBS）と業務提携し、NSSOLの提供する  
M3DaaSやセキュリティにJBSの提供するoffice365をはじめとする  
マイクロソフトソリューションを組み合わせクライアント管理、  
セキュリティ対策を中心とするコミュニケーション・コラボレーション基盤  
で協業を開始。

### ③クラウドサービス売上高推移

年度	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3 予想
売上高(億円)	120	140	155	165	175

## Ⅲ-1. 日本製鉄対応

### 1. 日本製鉄向け売上高の推移



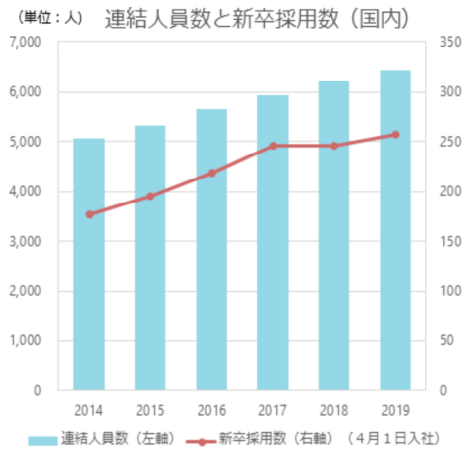
### 2. 商号変更およびグループ事業体制強化への対応

- ・日本製鉄への商号変更対応  
(2019/4/1)
- ・日鉄ケミカル&マテリアル統合対応  
(2018/10/1)
- ・ステンレス鋼板事業3社統合Day1対応  
(2019/4/1)
- ・エヌアイ情報システムの業務及び社員のNSSOLグループへの移管  
(2020年4月予定)

\* 日鉄日新製鋼および同社から日鉄ステンレスへ事業承継された事業のシステム業務の受託

## Ⅲ-2. 働きがいのある会社づくり

### ◆ 新卒採用（国内子会社を含む）



### ◆ 女性活躍の推進

#### えるぼし認定

厚生労働省が女性活躍推進法に基づく  
取り組み状況の一定条件を満たした  
企業を選定

#### くるみん

厚生労働省が次世代育成対策推進法  
に基づく一定基準を満たした企業を認定



# IV

## 參考資料





Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

## IV.2019年3月期のESGへの取り組み








### ESG取り組み基本方針

NSSOLは、「真の価値の創造により、お客様との信頼関係を築き、ともに成長を続け、社会の発展に貢献する」企業理念に基づき、豊かな社会づくりに向けてESG（環境・社会・ガバナンス）の観点からも様々な事業活動に取り組んでいます。

また、国連が主導する「持続可能な開発目標（SDGs）」にも積極的に取り組み、グローバルな社会の一員として持続可能な社会の実現に貢献していきます。

	取り組み方針	2019年3月期の取り組み事例	主なSDGs
E 環境	・ ITを通じた地球環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の生産業務、輸送業務における最適化ソリューションによる環境負荷の低減</li> <li>気象衛星「ひまわり」の運用事業を通じ気候変動の監視・予測に貢献</li> </ul>	 
	・ 環境負荷低減活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>高エネルギー効率のデータセンターによるクラウドサービスの提供</li> <li>電力、紙等の省資源活動の推進</li> </ul>	 

## IV.2019年3月期のESGへの取り組み

	取り組み方針	2019年3月期の取り組み事例	主なSDGs
S 社会	・ITを通じた社会課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IoTソリューションによる安全な作業現場の実現</li> <li>・設計・生産領域におけるトレーサビリティや統合情報管理による品質管理の強化</li> <li>・金融規制や、アンチマネーロンダリングなど金融ソリューションの提供</li> <li>・セキュリティソリューションの提供（NSSEINT）</li> </ul>	   
	・社会・地域の共生働きがいのある職場の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方変革、女性活躍の推進</li> <li>・高度IT人材の育成（NSSOLアカデミー）</li> <li>・次世代教育支援(大学向け寄付講座)</li> <li>・小学校でのプログラミング出張授業(K3Tunnel)</li> <li>・文化・芸術・スポーツ活動への支援</li> </ul>	  
G ガバナンス	・高品質なITソリューション及びITサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堅牢で効率的なITサービスの提供（NSFITOS）</li> <li>・プロジェクトリスク管理、品質管理の組織的展開</li> </ul>	
	・コーポレートガバナンス・コンプライアンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取締役会、監査役会の多様性の確保</li> <li>・NSSOLグループ行動規範「グローバル・ビジネス・コンダクト」の徹底</li> <li>・コンプライアンス委員会、コンプライアンス推進部の設置</li> </ul>	

Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

36



## Appendix



Copyright ©2019 NS Solutions Corporation. All Rights Reserved.

37

## 下期以降 主要プレスリリース①

- 10月9日 Oracle Partner Awards「Business Value Excellence Award 2018」受賞
- 10月10日 エプソン、機械学習プラットフォームDataRobotにより  
予測精度を50%以上向上
- 10月18日 機械学習プラットフォームDataRobotを旭化成に導入
- 10月31日 JBSとNSSOL、企業の働き方改革に必要なサービス拡大を目指し業務提携
- 1月11日 「えるぼし（段階2）」の認定取得
- 1月15日 NSSOL、東南アジアでのAIデータ分析プラットフォームの提供開始
- 2月4日 （株式会社ネットワークバリューコンポネンツ）NVC、クラウドWAF  
Incapsulaに対する運用支援サービスを提供開始
- 2月13日 機械学習プラットフォームDataRobot導入により、関西電力のデジタル  
トランスフォーメーションを支援

## 下期以降 主要プレスリリース②

- 2月20日 代表取締役の異動に関するお知らせ
- 3月6日 「DataRobot Partner of the Year」を2年連続受賞
- 3月19日 自己株式の取得結果および取得終了に関するお知らせ
- 4月2日 【ITRおよび富士キメラ総研調べ】国内DaaS市場でクライアント仮想化ソリューション「M<sup>3</sup>DaaS@absonne」が6年連続シェア1位を獲得
- 4月10日 "「人」が主役となるものづくり革新推進コンソーシアム"を設立
- 4月16日 NSSOL、AI開発プラットフォームKAMONOHASHIをOSS化
- 4月16日 NSSOL、研究所内にDataOpsを支援する組織を設置
- 4月19日 NSSOL、国内データ連携の本格化を目指す実証実験に参加
- 4月24日 NSSOL、Mnubo社とパートナーシップ契約を締結

本資料には当社又は当社役員の当社の営業成績及び財政状態に関する意図、意見又は現時点の予想と関連する将来予想が記載されております。

この将来予想は、歴史的事実でも将来の業績を保証するものでもないため、リスクと不確定な要素を含んでおります。実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。当社は、この将来予想を、これらの変化要因を反映するために修正することを保証するものではありません。



<https://www.nssol.nipponsteel.com/>

NS Solutions, NSSOL, NSロゴは、日鉄ソリューションズ株式会社の商標又は登録商標です。  
その他、資料中に記載の会社名・製品名は、それぞれ各社の商標又は登録商標です。